



今月のFujimist

佐藤 航太 さん(バレエ)

取材 シティプロモーション課 ☎049-256-9535

世界の舞台で躍る若きバレエダンサー

「小さい時から音楽と踊りに囲まれて育った」と語るのは、カナダ国立バレエ団で現役ソリストとして活躍する市内出身の佐藤航太さんだ。両親が社交ダンスをしていた影響で、幼いころから踊りに親しんでいた。5歳の時、母から勧められた初めてのバレエレッスンで「楽しい」と感じたことがバレエを始めたきっかけだという。舞台に立つのが楽しく、音に合わせて体を動かすのが好きだったと語り、7歳のころには海外でプロバレエダンサーになることが夢になったという。その第一歩として、中学3年生で出場したYouth America Grand Prix ニューヨーク決選でスカラシップを得てカナダ国立バレエ学校へ留学した。学校を首席で卒業後、18歳でカナダ国立バレエ団に入団。現在は主役、準主役を中心に年間100公演に出演する。「バレエは肉体労働なので、ケガとの闘い」と、ケガを予防するため、日々のトレーニングを大切に、食事もしっかり質をしっかりと取るよう心がけているという。

夢は自分でつかむもの

「夢は自分でつかむものだと思っている」と語る佐藤さんは、幼少期から持ち前のバイタリティーで、常に前向きな姿勢で努力を続けてきた。厳しい競争を経て役を勝ち取り、よい公演に至った先に待つ観客からのスタンディングオベーションは、最上の幸せと特別な感覚を感じるという。

「将来的には後進の育成にも力を入れて、自身が受け継いできたものを次の世代に引き継いでいきたい」と、自身を成長させてくれたバレエへの恩返しとして、次世代の育成とバレエの未来を見据える佐藤さんには、自身の表現力や演技力をさらに発揮できるような、自身がやりたい役がまだまだある。そして、その先に高みを目指すという道がある。「自分の好きなものなら、とことん突き詰めるのがベスト。チャンスは待っているだけでなく、自ら作り出すことが大切で、いつでも行動を起こせるよう、常に準備をしておくことも大事」と語る佐藤さんは、バレエへの深い情熱と愛を胸に、人生のさらなる大舞台へ邁進してまいしんていこう。

■市公式
ホームページ



■ SNS



LINE
Facebook
X(旧Twitter)
Instagram
YouTube



【カタログポケット】広報『富士見』を多言語で



【マチイロ】広報『富士見』をスマートフォンで



【テレ玉データ放送】テレ玉(地デジ3ch)視聴中にdボタンで市の情報を視聴



Fujimist募集

市内在住、富士見市出身の方などで活躍されている方を募集しています。自薦・他薦は問いません。



みんな笑顔☆ふじみ

富士見市

☎ 049-251-2711(代)

FAX 049-254-2000

〒354-8511

富士見市大字鶴馬1800-1



SUSTAINABLE
DEVELOPMENT
GOALS



富士見市は持続可能な開発目標(SDGs)を支援しています。